

令和 6 年度事業報告書

(自・令和 6 年 4 月 1 日～至・令和 7 年 3 月 31 日)

今年度は、新型コロナウイルスによる活動の自粛も和らいできたことから、若菜まつりや法人研修等を開催した。また、利用者の活動を多くの人に知ってもらうために、若菜の広報紙を作成し、保護者や関係者へ配布をした。その他にも VR 美術館を開設し、ホームページや名刺に QR コードを載せることで市内・県内を超えて利用者の活動を発信することができた。法人内については、利用者管理システム（ほのぼの）を導入し、業務の簡略化、コスト削減を行うことができた。

令和 6 年度 あやめの里（生活介護事業）において

生活介護サービスでは、若菜の方針である、働くことを通して自立支援を行った。

「認められる」「必要とされる」を念頭に生活介護支援を行い、具体的には、定員 20 名の支援を、施設長・サービス管理者 1 名・生活支援員 5 名・看護師 1 名・嘱託医 1 名で行った。

内容は、野菜の栽培、地域の草刈作業、内職作業等、障害・個性に合わせた支援。4 月よりすが野の里の利用者が大幅に増えたが、少しずつ受け入れを行ったことで大きなトラブルも無く、落ち着いて過ごすことができた。

令和 6 年度 潮かぜの里（生活介護事業）において

生活介護サービスでは、若菜の方針である、働くことを通して自立支援を行った。

具体的には、定員 20 名の支援を、施設長・サービス管理者 1 名・生活支援員 5 名・看護師 1 名・嘱託医 1 名で行った。

内容は、一般企業の袋詰め・箱折りなどの受託事業を中心に行い、芸術活動等、個性に合わせた支援を行った。あやめの里同様にすが野の里の利用者の受け入れがあったが、落ち着いて過ごすことができた。

令和 6 年度 さざなみの里（就労継続 B 型事業）において

就労継続 B 型サービスでは、海苔加工・清掃事業及び、内職作業を行った。

具体的には、定員 30 名の支援を、施設長 1 名・サービス管理者 1 名・生活支援員 2 名・職業指導員 4 名で行った。

内容は、海苔加工に関わる作業、清掃に関わる作業、内職作業、芸術活動等、個性に合わせた作業で、工賃アップを目指したが、物価高騰もあり大きな工賃上昇はみられなかった。

令和 6 年度 きずなの里（就労移行事業・就労継続 B 型事業・生活介護事業）において

就労移行支援事業サービスでは、一般就労に向けた具体的な支援を行った。

具体的には、定員 10 名の支援を、施設長・サービス管理者 1 名・生活支援員 1 名・職業指導員 2 名・就労支援員 1 名で行った。

内容は、ジャム製造・販売、喫茶店運営等、個性に合わせた作業を通して、協調性を養い、就労訓練を行った。実際に一般就労に移行できた利用者や、就労体験を行うことができた利用者もいる。

就労継続 B 型事業サービスでは、福祉的就労としての支援を行った。

具体的には、定員 20 名の支援を、管理者 1 名・サービス管理者 1 名・生活支援員 2 名・職業指導員 5 名で行った。

ジャム製造・販売、喫茶店運営、弁当の販売等個性に合わせた作業を通して、協調性を養い、一般就労に替わる工賃を目指し、工賃上昇の実現ができた。特に竹ヶ端公園の草刈り業務が大きな工賃向上のきっかけとなった。また、尾道頒布との作業依頼で今までにない活動に取り組むことができた。

生活介護サービスでは、若菜の方針である、働くことを通して自立支援を行った。

「認められる」「必要とされる」を念頭に生活介護支援を行い、具体的には、定員 20 名の支援を、施設長・サービス管理者 1 名・生活支援員 3 名・看護師 1 名・嘱託医 1 名で行った。

内容は、絵画・手芸など、創作活動を中心に行い、ギャラリー若菜にて利用者の個展も開催することができた。

令和 6 年度 瀬戸の里（生活介護事業・就労継続 B 型事業）において

生活介護事業サービスでは、畑作業を中心とした支援を行った。

具体的には、定員 27 名の支援を、管理者 1 名・サービス管理者 1 名・生活支援員 5 名・看護師 1 名・嘱託医 1 名で行った。

内容は、畑作業、織り等創作活動を通して集中する力を養い、利用者の自立を目指した。令和 6 年度は感染症による体調不良者が多くみられたため、感染症対策が課題となった。

就労継続 B 型事業サービスでは、福祉的就労としての支援を行った。

具体的には、定員 10 名の支援を、管理者 1 名・サービス管理者 1 名・生活支援員 1 名・職業指導員 3 名で行った。

内容は、畑作業、手工芸、創作活動等、個性に合わせた支援を行い、工賃増を目指した。創作活動が多く、収入が見込めなかったため、今後は収入が向上するよう外注などの活動を取り入れることが課題となった。

令和 6 年度 あじさいの里（生活介護・就労移行・就労継続 B 型）において

生活介護サービスでは、若菜の方針である、働くことを通して自立支援を行った。

具体的には、定員 20 名の支援を、施設長・サービス管理者 1 名・生活支援員 3 名・看護師 1 名・嘱託医 1 名で行った。

内容は、カレー製造を中心に行い、創作活動等、個性に合わせた支援を行い、創作活動では地域交流として地域の方と共に創作を行うことができた。

就労支援移行事業サービスでは、一般就労に向けた具体的な支援を行った。

具体的には、定員 6 名の支援を、施設長・サービス管理者 1 名・生活支援員 1 名・職業指導員 2 名・就労支援員 1 名で行った。

内容は、店舗訓練や食品加工など、就労訓練を行い、特に移動販売での活動が法人内外から好評であった。

就労継続 B 型事業サービスでは、福祉的就労としての支援を行った。

具体的には、定員 14 名の支援を、管理者 1 名・サービス管理者 1 名・生活支援員 1 名・職業指導員 3 名で行った。

内容は、畑作業、そば店運営など自立に向けた支援を行い、工賃増を目指した。また、SNS (TikTok) にそば屋「結」が紹介された際には客の数が多きく増えることがあったため、広報活動のヒントにしていきたい。

令和 6 年度 北方の里（生活介護）、分場久井の里において

生活介護サービスでは、若菜の方針である、働くことを通して自立支援を行った。

具体的には、定員 20 名の支援を、施設長・サービス管理者 1 名・生活支援員 4 名・看護師 1 名・嘱託医 1 名で行った。

内容は、創作活動・畑作業・食品加工等、個性に合わせた支援を行った。

尚、重度の生活介護の利用者のため、久井の里において少人数で落ち着ける場所を提供し、手厚い支援を目指し、メリハリのある活動を行うことができた。

令和 6 年度 せらの里（児童発達支援・放課後等デイサービス）において

放課後等デイサービスでは、児童の放課後、長期休み中の支援を、動物セラピーを中心に生きる力を伸ばせるよう支援を行った。

具体的には、定員 10 名の支援を、施設長・サービス管理者 1 名・保育士 5 名・嘱託医 1 名で行い、内容は、動物セラピー・アート班・畑班・音楽班・運動班など、個性に合わせた支援を行った。

児童発達支援では、生きる力を伸ばせるよう支援を行った。

具体的には、定員 10 名の支援を、施設長・サービス管理者 1 名・保育士 3 名・嘱託医 1 名で行い、内容は、動物セラピー・アート指導・ダンス指導・生活指導・文化活動など、個性に合わせた支援を行った。

令和 6 年度 就労支援施設（手打ちそば結・ギャラリー若菜・ジャムアンドカフェきずな）について

あじさいの里・さざなみの里・きずなの里の利用者において、支援効率を考え、施設とは切り離し、今までのスキルアップと共に、工賃の大幅なアップを図るため、就労訓練場所として支援を図る。ギャラリー若菜においては創作活動所を併設し、各施設の発表の場とし、毎月各事業所が芸術展や利用者の個展を開催することができた。

令和 6 年度 川辺の里（共同生活介護事業・短期入所事業）において

川辺の里共同生活介護事業・短期入所事業（川辺の里）において

共同生活介護事業・短期入所事業サービスでは、自立した日常生活が営めるような支援を行った。

具体的には、定員、川辺の里 18 名の支援を、管理者 1 名・サービス管理者 1 名・生活支援員 3 名・世話人 5 名で行った。

具体的には、一人ひとりが自立した日常生活が営めるよう支援すると共に、色々な体験を行い楽しい日常生活が営めるよう支援する。通所先では他者との交流が難しく、活動が困難な方もいるため、日中支援型グループホームの申請を進めていく予定であったが、対象利用者が共同生活でも追いついて過ごすことができたため、現状は申請を行っていない。

令和 6 年度 たかすの里（共同生活介護事業・短期入所事業）において

たかすの里共同生活介護事業・短期入所事業（たかすの里Ⅰ・たかすの里Ⅱ・さくらの里）において共同生活介護事業・短期入所事業サービスでは、自立した日常生活が営めるような支援を行った。

具体的には、定員、さくらの里 10 名・たかすの里Ⅰ 10 名・たかすの里Ⅱ 20 名の支援を、管理者・サービス管理者 1 名・生活支援員 3 名・世話人 9 名で行った。

具体的には、一人ひとりが自立した日常生活が営めるよう支援すると共に、色々な体験を行い楽しい日常生活が営めるよう支援し、外出等行うことができた。

利用者希望が多いため、たかすの里Ⅲ 10 名を受け入れる施設の建設を予定しているが、補助金などの活用も視野にしている。

令和 6 年度 あかねの里（共同生活介護事業・短期入所事業）において

あかねの里共同生活介護事業・短期入所事業（あかねの里・みのみの里Ⅰ・みのみの里Ⅱ・みのみの里Ⅲ・ゆうひの里）において、共同生活介護事業・短期入所事業サービスでは、自立した日常生活が営めるような支援を行った。

定員、あかねの里 10 名・ゆうひの里 6 名・みのみの里Ⅰ 6 名・みのみの里Ⅱ 10 名・みのみの里Ⅲ 10 名の支援を、管理者 1 名・サービス管理者 1 名・生活支援員 3 名・世話人 6 名で行った。

具体的には、一人ひとりが自立した日常生活が営めるよう支援すると共に、色々な体験を行い楽しい日常生活が営めるよう支援し、公園などの外出や外食などの活動ができた。

令和 6 年度 梨羽の里（共同生活介護事業・短期入所事業）において

共同生活介護事業・短期入所事業サービスでは、自立した日常生活が営めるような支援を行った。

具体的には、定員、梨羽の里 10 名の支援を、管理者・サービス管理者 1 名・生活支援員 2 名・世話人 3 名で行った。

具体的には、一人ひとりが自立した日常生活が営めるよう支援すると共に、色々な体験を

行い楽しい日常生活が営めるよう支援した。イベント時には料理やデザートを意識して季節感を感じられるような取り組みを行った。

令和6年度 若菜・尾道相談事業所（相談事業）において

相談事業サービスでは、自立した日常生活が営めるような支援を行った。

管理者1名・サービス管理者1名・相談員1名で行った。

具体的には、相談支援会議に参加し、相談支援について技術を深めつつ、尾道市（近隣含む）の障害者の相談支援を行った。グループホームから退去する利用者もあり、退去後の日中の活動場所、夜間の生活場の確保に注力することが多くみられた。

令和6年度 若菜・福山相談事業所（相談事業）において

相談事業サービスでは、自立した日常生活が営めるような支援を行った。

管理者1名・サービス管理者1名・相談員1名で行った。

具体的には、相談支援会議に参加し、相談支援について技術を深めつつ、福山市（近隣含む）の障害者の相談支援を行った。担当職員が産休にて長期不在になることから、代理の担当者を配置し、引継ぎ等に注力した。

令和6年度 せらの里相談事業所（相談事業）において

相談事業サービス（児童）では、将来自立した日常生活が営めるような支援を行う。

管理者1名・サービス管理者1名・相談員1名で行う。

具体的には、相談支援会議に参加し、相談支援について技術を深めつつ、世羅町（近隣含む）の障害者の相談支援を行う予定であったが、令和6年12月に世羅町から三原市の久井の里へ事業所移動があった。背景としては保護者がせらの里（児童発達支援、放課後等デイサービス）の面談や個別支援計画の説明と、相談支援事業所の面談や支援計画を混同してしまうことが多くみられ、困惑する保護者が多くみられた。また、久井方面でのサービスが希薄となっていることから、サービスの拡大も含めて移動することとなった。